

**1部：主人を待つしもべ  
(ルカ 12:34-40)**

信者の人生は、キリストにより救われた幸いな者という搖るぎないアイデンティティーをもって、再び来られるキリストを迎える準備として今日を生きるものなので、まるで主人を待つしもべのように生きることになる。主人を待つとは？

1. 常に主であるキリストに心が向かれ

1) 世界の基が据えられる前からのキリスト

2) 受肉のキリスト

3) 復活なさったキリスト

4) 再臨の主キリスト

5) 裁きの主キリスト

パウロはピリピ3:8でなぜちりあくたと言ったのか。

肉的願い、葛藤、不安、心配、憎しみ、心の傷などを捨てよう！  
私の中に御座のやぐらが建つよう祈り、3庭が作られて光の神殿を回復しよう！  
それで、出会いと家庭、業、地域に暗闇が碎かれる癒される答えをもって、47、一千、237,5000の絶対ヤグラを建てる聖書的伝道運動の主人公になろう！

**2部：肉に酔いしれて(創世記 6:1-8)**

信者にとって一番悲しいことは、幸せの基準が未信者と変わらないまま、光の神殿と無縁な人生を送ることで、それは信者の内側に崩れるべきものがあるという裏返しでもある。

2. キリストの願いに沿って人生を

1) 捨てるべきものを捨てて

①ガラテヤ2:20

②サタンの12やぐら

2) 取り戻すべきものを取り戻して

①御座のやぐらと旅程

②福音と御言葉と伝道

3) 建てるべきものを建てて

①神様の目標 ②御座の道しるべ

1. 肉的ものを人生の基準に

1) 肉的美しさ

2) 肉的豊かさ

3) 肉的平安

4) 幸せの基準に

5) サタンの策略-真の問題と幸せが見られないように

2. サタンの手助け

1) 宗教

2) 偶像

3) シャーマニズム

4) 肉的満足

5) ネフィリーム-サタンの奴隸

3. 神様の救い

1) わざわいを通して

2) 人間の真の問題を

3) 人間の真の幸せを

4) 箱舟へと

幸せの基準は、キリスト(マタイ5:3)、御座の祝福(エペソ1:3)にあり、神様が主人(詩篇23:1)になることである。

1部-ルカ12:34-40 主人を待つしもべ

なるほど／

主人が戻って来るのを待つしもべのように、信者はキリストが来られるのを待つ信仰になれば、常にキリストに心が向けられ、キリストの願いに沿って人生を生きることになる。

ならば／

自分の中にキリストに向けられないようにするものを碎いて、聖書的伝道運動の答えに預かれるように祈ろう！

2部-創世記6:1-8 肉に酔いしれて

なるほど／

サタンに騙されて、肉的なものを幸せの基準にして、結局ネフィリームになりサタンの奴隸になる人間に、神様はわざわいを通してでも真の問題と真の幸せを悟らせ、方舟へと導かれる。

ならば／

真の幸せの基準をキリストと御座の祝福、神様が主人となることに修正して、ネフィリームにやられている人々を助ける方舟を作ろう！